

令和3年度豆類振興事業助成金(試験研究)の成果概要の要約

⑨課題: 輪作体系における丹波大納言小豆栽培での効果的な排水を可能とする機械化技術の確立(3~5年度)

代表者: 京都府農林水産技術センター農林センター 作物部長 岡留和伸

目的

京都府の丹波大納言小豆は、集落営農組織を中心に機械化収穫体系が導入されているが、ほぼ全てが水田転換畑で生産されていることから、台風や秋雨等による湿害がしばしばみられる。

そこで、チゼルプラウ耕及び畦間サブソイラによる排水効果を検討し、集落営農組織に導入可能な、輪作丹波大納言小豆の効果的な排水技術を確立する。

成果

①チゼルプラウによる土壌水分管理

・チゼルプラウ耕を慣行のロータリ耕と比較したところ、降水量が多かった7月前半には、チゼルプラウ耕区の土壌体積含水率がロータリ耕区に比べ大きく低下した。

②畦間サブソイラによる湿害回避技術の構築

・9月は、畦間サブソイラを行うことで、降雨後の土壌体積含水率の上昇・低下幅が大きくなり、排水性向上が示唆された。精子実重は、畦間サブソイラの有無による有意な差はなかった。



写真1 チゼルプラウ (I社FDSS50)



写真2 チゼルプラウをトラクタで牽引している様子

各作業が土壌体積含水率に及ぼす影響※降水量は日雨量

